

## 「冬の野菜の王国明和」に期待！

突然、5月27日の上毛新聞の一面を賑わせた明和町の新しい野菜産地づくり計画ですが、この度、町の農業法人の皆様方や新しい野菜作りに興味がある皆様方が独自に協議会を立ち上げました。協議会の皆様方は何度も何度も、生産する現地を視察して富士食品(株)様と協議して出した結論です。ですから「町としても必ず後押しせねばならない政策」であります。

国は米の生産数量目標の配分(減反)を今年度で廃止することを決定しております。これによりまして、昭和40年代から始まった米の減反政策が終了し、新たな農業の新時代が訪れようとしております。そこで町では年々増加する農業者の高齢化、担い手不足により農地が荒廃していくことに歯止めをかけるため、何か「いい手」がないか？と探しておりました。

そのような中、当町の農業者各団体では1年ほど前から板倉町の富士食品工業(株)と、レタス・キャベツ栽培をこの明和地域で出来ないかと言う話し合いを進めて参りました。それは、米の減反政策が終了し、米価の下落に対応するためのものですが、同時に水稻から野菜へ転換し新たな農業の新時代を作ろうとするものです。

また、高収益の作物を導入し、そこから、収益があがり、そして、雇用が生まれ、さらなる儲かる農業への転換を図ることにより、農業振興、町づくりに繋がればと期待が膨らみます。

例えば現在、全国町村会の会長を務めております藤原村長は長野県川上村の村長ですが、ここはレタス農家が全国的に有名です。この八ヶ岳の麓

に広がる長野県南佐久郡川上村では、レタス出荷量日本一で人口4000人ほどの小さな村ながら、標高1300メートルの冷涼な気候で育まれるレタスは、大変美味しいと好評です。そしてレタス栽培は重労働ではありますが、世帯の平均年収がなんと2500万円という裕福な村なのです。

また、群馬県の赤城山の北斜面、この赤城高原に位置する昭和村一帯にはレタス畑が広がり、レタスの一大産地となっています。赤城高原のレタスは、実に全国第3位の生産量を誇ります。今、日本の農業は後継者不足と共に高齢化が深刻な問題となっていますが、昭和村のレタス農家にはその心配はないそうです。堤村長に話を聞いたところ、「うちの農家はみんな億の稼ぎですよ」と言い、またある農家では、「子供が家業の農業を継いだら、ご褒美にベンツやBMWあたりを買い与えるんだらうけど、こらじゃ、もっと高いフェラーリだからね」と言っていると聞きました。実際に昭和村にはフェラーリが走り回っていると言います。

明和町に話を戻しますが、富士食品(株)の高橋直二会長の提案は、「冬場の日照時間が多い明和町で冬キャベツやレタスを作ることが出来るから是非作ってもらい、それを富士食品(株)が買い上げるシステムで、技術指導・生産指導もするからいかがか？」と言うものです。米を作るよりも遙かに収益が出ると言います。また、冬場は虫が少なく良質のキャベツ・レタスが育つというものです。川上村や昭和村が雪に埋もれている冬にやるところがミソです。明和町の農業団体の皆様で、この度「新しい野菜産地づくり協議会」を立ち上げ果敢に儲かる農業へと転換を目指して挑戦し

て行く事になり、「攻めの農家さん」を町としても後押しして行く事となります。

この新しい野菜産地づくり計画が、町の農業法人の皆様方や新しい野菜作りに興味がある皆様方の手で、成功へと導かれますよう祈念し、加えて、当町が野菜の大産地となり、フェラーリとは行かなくてもBMWやベンツが走り回ることを夢見しております。

平成29年6月15日

明和町長 富塚もとすけ